

# 初対面場面における話題回避に関する質問紙調査

—日本と韓国の大学（院）生を対象に—

全 鍾美

キーワード 初対面場面 話題回避 質問紙調査 意識の差 日韓の差

## 1. はじめに

初対面の会話状況は新しく人間関係を築くための出発点であり、双方にとって重要な意味を持つ。そのため、初対面で何を話題に取り上げるかは、対人コミュニケーションを円滑に進めるために、重要な役割を果たしているといえる。

特に、文化的な背景を異にする人同士の初対面会話の場合、同じ質問であっても異なる言語社会によって相手に不快感を与える場合もあれば、全く失礼にならない場合もある（洪2007：105）。こういった点から、異文化間コミュニケーションにおける初対面の話題選択の問題は、各文化に共通点と相違点が存在する興味深い領域であるといえる。

本研究は、初対面会話における話題回避に焦点をあて、話題回避の実態とその背景となる意識を明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究

初対面場面における話題選択に関する研究は、主に社会心理学とコミュニケーション学の分野で行われており、質問紙調査法を用いたものがほとんどである。代表的な研究としては、Berger et al. (1976) が挙げられる。Berger et al. は、アメリカ人の初期の相互作用における話題の選択順序を明らかにした。アメリカ人200人を対象に、初対面の人と2時間会話をするという状況を想定させ、150項目の話題を15分単位の8つの時間帯に分類させた。調査結果より、まず身の上情報と表面的な情報が選択され、後半ではより深刻な内容であると思われる話題が選択されるということが明らかになった。

話題選択と文化間の関係を検討した研究としては、西田 (1998)、奥山

(2004, 2005)、熊谷・石井 (2005) がある。

西田 (1998) は、Berger et al. (1976) の研究を参考にして、日本人とアメリカ人との話題選択を比較した。西田はBerger et al.の項目を参考に作成した91項目からなる調査紙を用い、アメリカ人と日本人の話題の順序と自己開示<sup>1</sup>の量を調べた。初対面の人と30分間会話をするという状況を想定させ、準備した91項目の話題を3つの時間帯に分類させた。研究の結果として、アメリカ人が日本人に比べ、開示する話題数が上回ることがわかった。そして、話題の内容においては、アメリカ人が選択した話題は「個人的」とされるような内容の話題が多くみられたと述べている。

奥山 (2004, 2005) は、日韓の初対面会話における話題選択の共通点と相違点を検証するため、日本と韓国の男性と女性の大学生を対象に、初対面の話題選択の内容とその時間配分に関する質問紙調査を実施した。奥山は、日韓の差が表れた要因は、日本人側の「話題として選択しない」率が非常に高いことであったと述べている。また、このような話題を選択したとしても、韓国人側より遅い時間帯に少なく選択している場合が多いことが特徴的であるとしている。特に「意見・態度の表明」「宗教などに関する自己開示と質問」「歴史問題に関する話題」において、その特徴が顕著であると述べている。

熊谷・石井 (2005) は、日本人と韓国人の会話の話題選択に関する意識調査と面接調査を行った。意識調査では19項目の話題を設定し、相手の性別・親疎・年齢によって取り上げる話題がどのように異なるかを調べた。面接調査においては、同性の大学生2人を1組として、調査者が提示した3つの話題について対象者が約1時間自由に話す形式で行われた。熊谷・石井は、それらの研究結果から日韓ともにみられた話題選択のポイントを大きく以下の2点にまとめている。

①話題を盛り上げ、展開させていくこと：互いの共通点を探る。相手の関心のありかを探る。話が切れないような話題を選ぶ。相手をほめる。

②相手の私的部分に立ち入りすぎないこと：当たり障りのない話をする。突っ込んだ質問はしない。相手のコンプレックスに関わる話題は避ける。論争になりそうな話題は避ける。

会話データに基づいた研究においては、三牧 (1999) が日本語母語話者同士の初対面会話を、奥山 (2002) が日本語母語話者と韓国語母語話者の初対面会話を検討し、会話で取り上げられる話題の種類を調べた。これらの研究は会話で選択されやすい話題が調べられているが、選択されなかった話題については、調査対象者がどのような意識を持っていたかという情報が得られていない。

以上に挙げたような先行研究は、話題としてどんな項目を取り上げるかという、選択の有無を調査することを目的としたものがほとんどである。そのため、話題として取り上げることを回避する項目や、それはなぜかといった理由を検討・解明するまでは至っていない。

本研究では、以上の先行研究を踏まえ、話題選択の回避の他に、実際の会話では観察できない初対面会話における話題回避の理由を調べることが目的とし、質問紙調査を行う。

### 3. 調査の概要

#### 3.1 調査方法と調査項目の設定

本研究では、初対面場面における話題選択・回避に関する意識を調べるため、質問紙調査を行う。

話題選択に至るパターンは、会話参加者が、お互いに質問し、その答えが会話の話題として発展していくようなパターンもあれば、一方的に自己開示していき、それがきっかけで話が進行するパターンなど、多様であることが考えられる。<sup>2</sup>

本研究では、まず、質問による話題選択のパターンに注目し、調査項目を設けた。話題選択の形式としては、「初対面の相手に質問する場合」と「初対面の相手に質問される場合」の2種類を設定する。<sup>3</sup> 調査項目としては、初対面場面における話題項目の選択および回避と、話題選択及び初対面場面に関する意識について以下の4点に関して質問項目を設ける。調査項目の具体的な内容は以下のようである。<sup>4</sup>

##### ① 話題の選択傾向（【資料】の1、2）

この調査では44の質問形式の話題項目を設け、ある話題について同性同年齢<sup>5</sup>の初対面相手に聞かれた場合、「答えにくい」もしくは「答えやすい」と思われる話題項目を選択するよう指示した。さらに、同一の話題項目を同性同年齢の初対面相手に自分が聞くことを想定した場合、「聞くのが失礼だ」もしくは「聞いても良い」と思われる話題項目をそれぞれ選択させた。

##### ② プライバシーに関する調査（【資料】の3、4）

この調査では、14からなる話題項目を設け、その話題がプライバシーに関わっているかどうかについて調べた。項目作成にあたって、先行研究（三牧1999；奥山2005）で初対面場面において選択頻度がやや少ないとされた話題と、日韓で異なるであろうと想定される話題を対象にした。さらに、プライバ

シーに関わると思われる話題が初対面会話で取り上げられた場合、どのように考えるのかについても調べた。

### ③ 初対面会話の展開方法に関する調査（【資料】の5）

ここでは、初対面の相手と会話を進める際の意識について調査を行った。初対面の相手との会話を進める場合、「相手に関心を示しながら会話を続ける」か、「相手の考えを考慮しながら慎重に会話を続ける」かのうち、どちらかに回答するように指示した。

### ④ 初対面の相手に対する配慮に関する調査（【資料】の6）

ここでは、初対面の相手に対する配慮における意識を調べた。調査対象者には「相手に興味を持ち、積極的に会話をする」もしくは「相手とある程度距離を置きながら会話をする」のうち、初対面の相手への配慮であると思われるものを選択させた。

## 3. 2 調査対象

調査対象者は、日本愛知県在住の日本語母語話者と韓国釜山市在住の韓国語母語話者である。対象者数は日本語母語話者の男性10名（以下JM）と女性10名（以下JF）、韓国語母語話者の男性10名（以下KM）と女性10名（以下KF）の、合計40名である。全ての調査対象者は、20代の大学生または大学院生である。<sup>6</sup>

調査時期は、2006年8月から9月にかけて、名古屋と釜山で実施した。日本語母語話者の場合、一部の調査対象者に対しては電子メールによる調査の実施・回収を行った。韓国語母語話者の場合、調査対象者の全員に対面して調査を実施した。<sup>7</sup>

## 4. 結果

### 4. 1 話題項目の選択傾向

#### 4. 1. 1 初対面の相手に質問された場合

ここでは、先行研究（奥山2004, 2005）の調査項目を参考にし、44の質問形式の話題項目を設けた。ある話題について同性同年齢の初対面相手に聞かれて「答えやすい」もしくは「答えにくい」という2つの回答のうち、「答えにくい」と回答した頻度だけを取り出した。表1にその頻度を示す。表1はすべての対象者の合計人数の多いものから順に並べ替えてある。

頻度を比較した結果、多くの項目において、日本と韓国の類似した傾向がみ

られた。その中で、調査対象者の半数以上が「答えにくい」としている話題項目は「お小遣い」で、特にJFとKFの選択が多かった。

しかし、話題によっては日韓の頻度の差が目立つ項目もみられた。日本側の頻度が多い話題項目としては「宗教」「政治家」であった。この他に、全体的な頻度が低いが、そのなかで日本側の頻度が韓国側をやや上回る項目は「学校名」「浪人有無」であった。

反対に、全体的に頻度は低いものの、韓国側の「答えにくい」とした回答が日本側より多い項目は「身長」「誕生日」「結婚有無」「居住形態」であった。

その他の項目においては、一定した傾向がみられなかった。「性格」の項目においては、JMを除いて初対面で選択しない傾向が目立つ。その以外にも「将来の仕事」「理想のタイプ」の項目においてはJMの頻度が少ない。

JFの選択が多い項目は「卒業後の予定」「夢」であった。「年齢」の項目を選択したのはJFのみであった。KFの頻度のみが少ない項目は「環境問題」で、KMの頻度のみが少ない項目は「交際期間」であった。「家族の職業」の項目に関しては一定した傾向がみられなかった。

表1 聞かれて答えにくいと思う項目（頻度）

項目	日本 (J)			韓国 (K)		
	女 性 (JF)	男 性 (JM)	合 計	女 性 (KF)	男 性 (KM)	合 計
お小遣い	8	5	13	7	5	12
夢	8	3	11	5	6	11
性格	5	3	8	6	7	13
バイト代	6	4	10	6	2	8
将来仕事	6	2	8	5	5	10
交際期間	5	5	10	5	2	7
結婚予定	5	4	9	5	3	8
政治家	7	5	12	2	3	5
恋人有無	5	4	9	5	2	7
理想のタイプ	5	2	7	4	5	9
環境問題	4	5	9	1	5	6
仕事方向	5	1	6	4	3	7
卒業後	6	2	8	1	3	4
家族職業	4	2	6	2	3	5

表2 聞くのが失礼だと思う項目（頻度）

項目	日本 (J)			韓国 (K)		
	女 性 (JF)	男 性 (JM)	合 計	女 性 (KF)	男 性 (KM)	合 計
お小遣い	9	8	17	10	8	18
浪人有無	8	10	18	9	8	17
バイト代	8	8	16	10	7	17
家族職業	7	7	14	8	8	16
結婚予定	8	7	15	9	5	14
交際期間	8	6	14	8	6	14
恋人有無	8	8	16	6	5	11
兄弟結婚	7	7	14	7	4	11
身長	5	5	10	7	6	13
結婚有無	6	6	12	6	4	10
性格	5	4	9	6	7	13
就活中	5	5	10	5	3	8
仕事方向	5	2	7	7	4	11
宗教	7	8	15	2	1	3

居住形態	2	1	3	4	4	8
宗教	5	3	8	2	1	3
兄弟結婚	3	2	5	2	2	4
就活中	2	1	3	3	2	5
身長	1	0	1	3	3	6
居住地	2	1	3	2	1	3
バイト種類	3	0	3	2	1	3
浪人有無	2	2	4	1	1	2
誕生日	0	1	1	2	2	4
結婚有無	1	0	1	2	2	4
趣味	0	2	2	1	1	2
学校名	3	1	4	0	0	0
家族	1	0	1	0	2	2
バイト	1	0	1	1	1	2
趣味履歴	1	1	2	1	0	1
専攻好き	0	1	1	1	1	2
年齢	2	0	2	0	0	0
兄弟有無	1	0	1	0	1	1
料理	0	1	1	0	1	1
流行	0	1	1	0	1	1
血液型	0	0	0	1	0	1
好きな食べ物	0	0	0	0	1	1
専攻	1	0	1	0	0	0
学年	1	0	1	0	0	0
サークル種	1	0	1	0	0	0
名前	0	0	0	0	0	0
出身地	0	0	0	0	0	0
旅行	0	0	0	0	0	0
就職	0	0	0	0	0	0
サークル	0	0	0	0	0	0

卒業後	5	2	7	6	4	10
政治家	7	4	11	4	2	6
学校名	3	4	7	4	5	9
夢	7	2	9	5	2	7
理想のタイプ	4	2	6	5	3	8
環境問題	5	3	8	4	2	6
年齢	5	2	7	3	3	6
家族	3	3	6	4	3	7
居住形態	3	1	4	6	3	9
血液型	5	2	7	2	1	3
誕生日	2	2	4	4	2	6
兄弟有無	3	2	5	3	2	5
将来仕事	4	1	5	2	3	5
バイト種類	1	1	2	5	2	7
料理	3	2	5	2	2	4
居住地	2	1	3	2	1	3
専攻	0	2	2	2	2	4
学年	1	2	3	1	1	2
専攻好き	1	1	2	1	2	3
バイト	0	0	0	2	2	4
流行	0	2	2	2	0	2
趣味履歴	1	0	1	0	2	2
就職	0	0	0	1	2	3
名前	0	0	0	1	1	2
出身地	0	0	0	1	0	1
趣味	0	0	0	0	1	1
サークル	0	0	0	0	1	1
サークル種	0	0	0	0	1	1
旅行	0	0	0	0	0	0
好きな食べ物	0	0	0	0	0	0

#### 4. 1. 2 初対面の相手に質問した場合

4.1.1の調査では、初対面の相手に質問された場合を想定した調査の結果について述べた。ここでは、調査対象者に4.1.1の調査項目と同一の話題を同性

同年齢の初対面相手に自分から質問すると想定させ、「聞くのが失礼だ」もしくは「聞いても良い」と思われる話題項目をそれぞれ選択するよう指示した。「聞くのが失礼だ」と思われる話題として選択した結果を示したのが表2となる。

全体的な傾向としては「お小遣い」「浪人有無」「バイト代」「家族の職業」の話題項目が多く回答された。この結果から「バイト代」と「お小遣い」のような金銭に関する項目と「浪人有無」の項目は、日韓ともに初対面の相手に聞くことの少ない項目とされる傾向にあるといえる。

また、話題項目によっては男女によって頻度に相違がみられた。日韓の女性側（JFとKF）の回答が多くみられた項目としては「夢」があった。全体的に頻度が高い項目のうち、特にJFとKFの頻度が高い結果を示した項目は「交際期間」と「結婚予定」であった。全体的な頻度は低いが、JFとKFの頻度がJMとKMに比べ、やや高いとされる項目は「兄弟有無」「居住地」「理想のタイプ」「環境問題」であった。

さらに、項目によっては日韓の差もみられた。日本側の頻度が高い項目としては「恋人有無」と「宗教」があった。特に、「宗教」の項目に関しては、韓国側との差が大きく、日本と韓国では宗教に関する意識の差が顕著であることがわかった。韓国側の頻度が高い項目は「身長」「アルバイト」「職業」であった。

他の項目においては、一定した傾向がみられなかった。JFの頻度が目立つ項目では「年齢」「血液型」「料理」「将来の仕事」「政治家」があった。そして、KFの頻度が高い項目は「誕生日」「家族」であった。

JMの頻度が低いものとしては「卒業後の予定」「仕事の方向」「性格」の項目があった。KMの頻度が高い項目としては「居住形態」「バイトの種類」「学校名」があった。それと反対に、「兄弟の結婚有無」と「就活中」の項目では、KMの頻度が低い結果となった。

## 4. 2 プライバシーに関わる話題項目と意識

### 4. 2. 1 話題項目の選択傾向

ここでは、プライバシーに関わると思われる話題項目と意識について行った調査結果について述べる。

表3 プライバシーに関わると思う話題項目(頻度)

	日本 (J)			韓国 (K)		
	女性(JF)	男性(JM)	合計	女性(KF)	男性(KM)	合計
収入	8	9	17	9	10	19
恋人有無	8	8	16	5	5	10
結婚歴	6	9	15	5	5	10
家族	5	4	9	2	4	6
宗教	8	6	14	1	0	1
年齢	5	4	9	2	4	6
外見	4	3	7	3	4	7
性格	4	2	6	4	2	6
好み	3	1	4	4	3	7
職業	3	2	5	1	2	3
住まい	4	0	4	2	1	3
趣味	1	1	2	1	1	2
専攻	2	0	2	0	0	0
関心分野	1	0	1	0	0	0

表3は、プライバシーに関わる話題だと判断された項目の結果である。表3にみられるように、項目によっては共通点と相違点がみられた。

日韓の男女ともに、「プライバシーである」と思っている話題項目は「収入」であった。これは、金銭に関する話題は初対面では回避する傾向にあると述べている一連の先行研究(奥山2002, 2005)の結果と同様である。

日韓の差が最も大きい項目は「宗教」であった。その他、日韓の差が目立った項目としては、「恋人有無」「結婚歴」があった。これらも、JFとJMの頻度が高い。このことから、「宗教」「恋人有無」「結婚歴」の関連話題は日本語母語話者にとっては、プライバシーとして捉えられる傾向にある話題であるといえるであろう。

その他、JF・KFに多く選択された項目として「性格」「住まい」があった。そして、JMの選択のみ少ない項目としては「好み」が、KFの選択のみ少ない項目としては「年齢」「家族」があった。JFの選択のみにみられた項目としては、JFの2名を除いて選択されていない「専攻」と、「職業」があった。

選択頻度に日韓の差が少なく、男女差もみられない項目としては「趣味」「関心分野」「外見」「性格」があった。

そのなかで、日韓両方とも選択が少ない話題項目もみられた。JF・KF・JM・KM共に1名であった「趣味」、JFの1名を除いて選択されていない「関心分野」は日韓においてプライバシーに関わる項目とされていない結果が示された。

#### 4. 2. 2 プライバシーに関わる意識

次は、プライバシーに関わる意識について調べた結果を述べる。4.2.1の話題を含め、プライバシーに関わると思われる話題を初対面会話で取り上げた場合、どのように捉えられるのかを調べた。

以下に調査結果を示す（図1）。

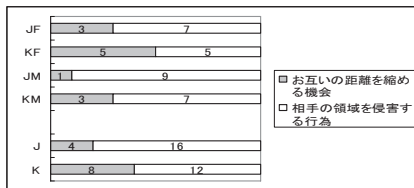


図1 プライバシーに関わる話題の取り上げに対する意識（頻度）

調査の結果、全体的にJがKに比べ、「プライバシーに関わる話題は相手の領域を侵害する行為であるため、なるべく取り上げない」と答えた頻度がやや高いことがわかった。さらに、表3の結果からもわかるように、プライバシーと思われる話題項目にも日韓の差がみられたことから、実際の初対面会話の際には、取り上げる各々の話題項目に対する意味づけが、日韓によって異なることが予想される。

#### 4. 3 初対面会話の展開方法

次に、初対面の相手と会話を進める際の意識における調査結果を述べる。

調査の結果を図式化したものが図2である。「相手に関心を示しながら会話を続けていくことが重要」と答えた選択頻度をみると、JFとJMは5名ずつであった。韓国側は、KFの6名とKMの7名が「相手に関心を示しながら会話を続けていくことが重要」と答えている。

男女合計からみた日韓の差を比較した結果、Jは「相手に関心を示しながら会話を続けていくことが重要」の選択が10名、「相手がどのように考えるのかを考慮しながら慎重に会話を続けていくことが重要」の選択が10名である。また、Kは「相手に関心を示しながら会話を続けていくことが重要」と答えた

のが13名、「相手がどのように考えるのかを考慮しながら慎重に会話を続けていくことが重要」であると答えたのが7名である。このことから、日本と韓国の「初対面の相手との展開方法」における意識には、選択頻度にはやや差があるものの、類似した傾向にあることがわかった。

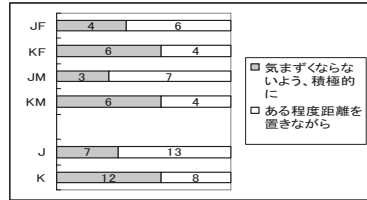
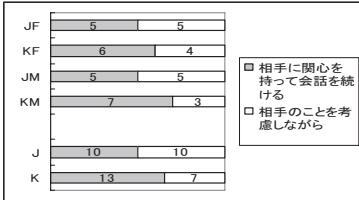


図2 初対面会話の展開方法（頻度） 図3 初対面相手に対する配慮（頻度）

#### 4. 4 初対面の相手に対する配慮

最後に、初対面の相手に対する配慮における意識を調べた結果を述べる。調査結果を図式化したものが図3である。

図3のように、男女合計からみたKとJの選択頻度を比較すると、日韓間に「相手に興味を持ち、積極的に会話をするのが相手への配慮」とする選択頻度の差が大きいことがわかる。この結果から、日本語母語話者は、初対面相手に対する配慮とは、「初対面であることを考慮し、相手とある程度距離を置きながら会話をするのが配慮」としている人が、20名のうち13名いることから「遠慮意識」<sup>8</sup>があると考えられる。これに対し、韓国語母語話者は「相手が会話で気まずくならないよう、興味を持ち、積極的に会話をするのが配慮」という傾向が多少あり、日韓によって初対面の相手に対する配慮の意識がやや異なることが示唆される。

### 5. 考察

本研究では、初対面場面における話題回避および意識調査を行い、日本と韓国の共通点と相違点を検討した。質問における回答の頻度の他に、以下のような特徴が見出された。

話題によっては、同一の話題であっても、話題の取り上げ方によって異なる傾向がみられる項目もあった。すなわち、「聞かれて答えにくい」場合と、「聞くのが失礼である」場合の結果が一致していない項目である（例：「身長」「家

族の職業」「浪人有無」「恋人有無」など)。このような話題は「話題をどのように導入するか」という話題の取り上げ方によって、話題に対する意識が異なり得ることが考えられる。

一方、「バイト代」「お小遣い」のような金銭に関する話題や、「宗教」「性格」のように、話題を取り上げ方と関係なく、類似した結果がみられる項目もあった。このような項目は、話題に対するイメージが固定されており、いかなる導入の仕方でも、初対面場面において取り上げやすい、もしくは取り上げにくいとされていることが考えられる。三牧（1999：49）は、文化を共有する集団には一般的あるいは典型的な知識の集合であるスキーマ（schema）が共有されると述べている。初対面会話においてはどのような話題が適しているか、あるいは避けるべきかに関する一般的な知識が共有されていると考えられるとし、話題選択に関しても「初対面会話における話題選択スキーマ」が共有されていると述べている。このように、日本と韓国においても、初対面会話の話題選択には、いわゆるスキーマが存在し、それは、日韓で共通するものもあれが、異なるものもあることが考えられる。

プライバシーに関わると思われる話題と意識調査、初対面会話の展開方法と配慮における調査においても、日韓の意識に共通点と相違点があった。日本と韓国は、同じく高コンテクスト文化<sup>9</sup>に属している東洋文化圏の国であるが、社会文化的背景が異なっており、言語文化の慣習にも差があると考えられる。そのため、日本語母語話者と韓国語母語話者が初対面で行う言語行動や意識には相違があるのではないだろうか。

任（2006：15）は、韓国人は相手の私的領域に多少踏み込んででも、話題や質問の仕方によって、親しみを表現しようとしているとし、コミュニケーション・スタイルの違いには、それぞれの文化における丁寧さや親近感、さらには価値観の表し方が反映されていると述べている。そして、熊谷・石井（2005：93）は、「どういった相手に何の話題を選ぶのが適切かという考え方は、文化や慣習によって異なり得るが、そうした違いが、時には円滑なコミュニケーションを阻害することもある」と主張している。このように、本研究の調査結果にも、任・熊谷・石井の見解と同様、初対面会話の配慮の仕方、そして、プライバシーに関わる話題とその取り上げ方に日韓の意識の相違がみられた。これは、日本と韓国、初対面という場面の捉え方と、初対面の相手に対する接し方が異なることによるものであることが窺われる。

## 6. 今後の課題

本研究では、日本と韓国の初対面場面における話題回避に関する意識調査を行い、共通点と相違点を調べた。その結果、取り上げる項目に関する意見や初対面場面や初対面相手に関する意識において、日韓両者に類似性があることがわかった。

しかし、本研究で残された課題は少なくない。本研究は調査対象者の40名を対象としたものであるため、その結果を一般化することが難しい。そのため、調査対象者数を増やした上で統計処理を行い、結果を一般化しなければならない。

次に、調査項目の検討が挙げられる。本研究では、プライバシーと思う話題と意識、初対面の相手に対する意識、配慮の仕方など、既存の先行研究では行われていない部分に注目し、質問項目を作成した。しかし、質問紙の作成の上、調査項目と回答内容において、不十分な点が多かったと考えられる。このような問題点を解決するため、質問項目を検討・改善すべきである。

また、本研究においては、話題選択と回避に性差がある項目が存在した。相手を同性と想定した調査である今回の研究では、同性の相手に対する意識を調べることができた。しかし、女性-男性のような異性間の会話である場合、選択する話題がお互いに噛み合わない可能性も考えられる。異性の相手と初対面である際、話題項目における意識が、相手が同性の場合と異なることもあり得る。この点を明らかにするためには、さらなる研究方法と調査項目への工夫が必要とされる。

さらに、20代の学生に限定した調査対象者の属性を拡大し、年代や職業など、他の要因も加えた調査との比較が必要であろう。

最後に、実際の会話データを用いた研究結果との比較が必要不可欠であることを挙げる。質問紙調査では、会話では実際にみられない話題とそれにおける意識についても調べることができる。しかし、実際の会話で個々の話題がどのように選択され、発展し、終了するかはつかめない。会話データを分析することによって、特定の話題がどのように取り上げられ、展開していくのかを、より具体的に観察することができると思われる。会話調査の分析結果と質問紙調査の結果を総合的に分析することによって、初対面会話の話題選択および回避の現象を明らかにすることが今後の課題である。

## 注

1. 自己開示 (self-disclosure) とは、自分自身の態度、意見、パーソナリティー等の自分自身の情報を意図的に他者に対して示していくことをいう。対人関係において、適切なタイミングで適度な自己開示をすれば、相手との関係を円滑に保つことができる (徳井・榎本2006: 10)。
2. Berger et al. (1976)、西田 (1998) は自己開示の形式の話題項目を作成し、質問紙調査を行った。奥山 (2004, 2005) は、Berger (1979) に基づき、自己開示 (self-disclosure)・質問 (verbal interrogation)・欺瞞看破 (deception detection) の形式の話題項目を作成した。
3. 宇佐美・嶺田 (1995: 138) は、会話開始の際に、質問することによって得られた個人的情報の中から、共通の事柄や興味を探り、会話を進めて行くという展開が多くみられたと述べている。そして斉藤 (1989: 43) は疑問文・質問文におけるコミュニケーション情報の機能として、「人間関係・社会関係をつくり、深めるためのもの」とし、コミュニケーションにおける質問の重要性を言及している。
4. 実施した質問紙は【資料】参照。(日本語版のみ)
5. 宇佐美・嶺田 (1995: 140) は、初対面の場合、同性同士の方が互いの心的距離が近いのか、同性同士の組のほうが共通の話題を見つけて、いわゆる弾んだ会話になりやすいという傾向が見られたと述べている。このようなことから、本研究では、調査対象者に初対面場面で最も会話が進むと思われるような相手との会話を想定してもらうため、同性同年齢を会話の相手として設定した。
6. 分析において、男女を合わせた全体対象者間の比較を行うため、男女合計における表記を異にする必要があると考えられる。そのため、男女の合計からなる日本語母語話者全体をJ、男女の合計からなる韓国語母語話者全体をKと記す。
7. 韓国語母語話者には韓国語に訳した質問紙を配付・回収した。
8. 陣内 (2006: 115) は、「ほかし表現」が本来「遠慮意識」から発したものであると述べている。ものごとを表現する際にほかしたり婉曲表現を用いたりすることは日本人の特徴として、あるいは日本文化の方のひとつとしてよく言われているとしている。これは基底に「遠慮」という人間関係心理があり、そのことが相手の領域に直接的に踏み込まない表現をとらせると述べている。

9. コミュニケーションにおけるメッセージの解釈の際にコンテキストに頼る度合の高い文化を高コンテキスト文化、コンテキストに頼る度合の低い文化を低コンテキスト文化と呼ぶ。高コンテキスト文化においては同一文化のメンバー間で共有される行動規範が確立されていることが前提となっていることから、高コンテキスト文化と集団主義文化（逆に低コンテキスト文化と個人主義文化）が同義語として使われることも多い。（『異文化コミュニケーション・ハンドブック』1997：235）

### 参考文献

- 石井 敏・久米昭元・遠山 淳・平井一弘・松本 茂・御堂岡 潔 編（1997）『異文化コミュニケーション・ハンドブックー基礎知識から応用・実践まで』有斐閣選書
- 任 榮哲（2006）「韓国人とコミュニケーション」真田信治 監修・任 榮哲 編『韓国人による日本社会言語学研究』おうふう pp.7-19
- 宇佐美まゆみ・嶺田明美（1995）「対話相手に応じた話題導入の仕方とその展開パターンー初対面二者間の会話分析より」『名古屋学院大学日本語・日本語教育論集』第2号 pp.130-145
- 奥山洋子（2002）『質問と自己開示による情報収集の韓日比較ー大学生同士の初対面の会話資料をもとにー』中央大学校大学院 日語日文学科 博士学位論文
- （2004）「初対面の話題内容の選択と時間帯ー韓日男子大学生対象の調査ー」『日本学報』第61号 韓国日本語教育学会 pp.183-200
- （2005）「韓日大学生の初対面の話題選択と時間帯における比較分析ー女子大学生間と男女合計間を中心にー」『人文科学研究』第11輯 同徳女子大学校 出版部 pp.71-94
- 熊谷智子・石井恵理子（2005）「会話における話題の選択ー若年層を中心とする日本人と韓国人への調査からー」『社会言語科学』第8巻 第1号 社会言語科学会 pp.93-105
- 斉藤里美（1989）「日本語教育における疑問文・質問文ーコミュニケーション上の機能からみた日本語教材の課題ー」『日本語学』Vol.8 8月号 明治書院 pp.41-56
- 陣内正敬（2006）「ほかし表現の二面性ー近づかない配慮と近づく配慮ー」国立国語研究所『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版 pp.115

-131

- 徳井厚子・榎本智子 (2006) 『対人関係構築のためのコミュニケーション入門－日本語教師のために』 ひつじ書房
- 西田 司 (1998) 『異文化の人間関係』 多賀出版
- 洪 珉杓 (2007) 『日韓の言語行動の理解』 風間書房
- 三牧陽子 (1999) 「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー－大学生会話の分析－」 『日本語教育』 103号 日本語教育学会 pp.49－58
- Berger, C. R. (1979) Beyond initial interactions: Uncertainty, Understanding, and the Development of Interpersonal Relationship. *Language and Social Psychology*, 122－144.
- Berger, C. R., Gardner, R. R., Clatterbuck, G. W., & Schulman, L. S. (1976) Perceptions of information sequencing in relationship development. *Human Communication Research*, 3(1), 29－46.

### 【資料】：初対面の話題に関する意識調査－調査票（日本語版）

- ◆ 質問1は初対面の会話で、取り上げられる話題に関する質問です。質問1はあなたと初対面の相手との会話で、相手の質問に答えられる範囲に関する質問です。質問を読んで、答えてください。
1. あなたは初対面の相手との会話で、相手から質問されました。初対面の相手はあなたと同姓であり、同じような年齢です。質問の横にある<>に質問に関するあなたの考えを番号（1または2）で記入してください。番号に関する説明は以下の通りです。

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| ( )には答えにくい／答えるのがためらわれる…… | 1 |
| ( )には答えやすい／迷わずに答えられる……   | 2 |
| < ( )は相手の質問です>           |   |

次の項目は相手のあなたへの質問です。項目を読んで、あなたの考えを番号（1または2）で記入してください。〔例〕音楽好きですか。< 1 >

- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| お名前はなんですか。<>  | 学生（会社員）ですか。<>      |
| おいくつですか。<>    | 学校（会社）はどこですか。<>    |
| 故郷はどこですか。<>   | 専攻はなんですか。<>        |
| 血液型はなんですか。<>  | 何年生（入社して何年目）ですか。<> |
| お誕生日はいつですか。<> | 浪人しましたか。<>         |

- 身長はどのくらいですか。<> 今就活していますか。<>  
 結婚していますか。<> 専攻（仕事）は面白いですか。<>  
 何人家族ですか。<> サークルに入っていますか。<>  
 何人兄弟ですか。<> どんなサークルですか。<>  
 家族はどんな仕事をしていますか。<>卒業した後、就職する予定ですか。<>  
 兄弟は結婚していますか。<> 今の仕事を続ける予定ですか。<>  
 お住まいはどちらですか。<> 将来どんな仕事をしたいですか。<>  
 一人暮らしですか。<> 夢は何ですか。<>  
 アルバイトをしていますか。<> 彼氏（彼女）いますか。<>  
 どんなアルバイトをしていますか。<>恋人と付き合っているくらいですか。<>  
 バイト代はいくらですか。<> いつ頃結婚したいと思っていますか。<>  
 お小遣いはいくらですか。<> 理想のタイプはどんな人ですか。<>  
 趣味は何ですか。<> 宗教は何ですか。<>  
 （趣味を）いつからしていますか。<>あなたはどんな性格ですか。<>  
 旅行は好きですか。<> 環境問題についてどう思いますか。<>  
 好きな食べ物は何ですか。<> 最近…が流行っていますが好きですか。<>  
 料理は上手ですか。<> 今の政治家についてどう思いますか。<>

- ◆ 質問2はあなたと初対面の相手との会話で、あなたが相手に質問する範囲に関する質問です。質問を読んで、答えてください。
2. あなたは初対面の相手との会話で、相手に質問しました。初対面の相手はあなたと同姓であり、同じような年齢です。質問の横にある<>に質問に関するあなたの考えを番号（1または2）で記入してください。番号に関する説明は以下の通りです。

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| ( )について聞くのは失礼である…………… | 1 |
| ( )について聞いても良いと思う…………… | 2 |
| < ( ) はあなたが相手にする質問です> |   |

次の項目はあなたの相手への質問です。項目を読んで、あなたの考えを番号（1または2）で記入してください。〔例〕音楽好きですか。<1>  
 （話題項目は省略。話題項目は質問1と同一。）

- ◆ 質問3～4はプライバシーに関わることにに関する質問です。質問を読んで、答えてください。
3. 下にはいくつかの項目が提示されています。下の項目の中で、プライバシーに関わると思われる項目に下線を引いてください（複数回答可）。

家族 収入（お小遣い、給料）	住まい	恋人の有無	趣味	関心分野	専攻	結婚歴
	宗教	年齢	職業	外見	性格	好み

4. プライバシーに関わる話題を取り上げることについて（ ）

- ① プライバシーに関わる話題を取り上げるのは、初対面での会話の気まずさがある程度解消してくれる。さらにこのような話題は相手への関心の表れであり、お互いの距離を縮める機会になるので、取り上げて良いと思う。
- ② プライバシーに関わる話題は相手の領域を侵害する行為になりうる。従って、このような話題は相手を誤解させ、不快を感じさせるので、なるべく触れない方が良いと思う。

◆ 質問5～6は初対面の相手との会話に関する全体的な質問です。

各質問には二つの意見が提示されています。二つの意見を読み、あなたの意見に最も近い番号を（ ）に記入してください。

5. 初対面の相手との会話の展開方法について（ ）

- ① 初対面の相手との会話では、初対面であることを意識することによって会話が気まずくなる可能性がある。従って、その雰囲気や和らげるため、相手に関心を示しながら会話を続けていくことが重要である。
- ② 初対面の相手との会話では、相手に関する情報や知識がない状態で会話を続けていくという難点があるので、相手のことを十分意識する必要がある。話題を取り上げる前、その話題について相手がどのように考えるのかを考慮しながら慎重に会話を続けていくことが重要である。

6. 初対面の相手に対する配慮について（ ）

- ① 相手が会話で気まずくならないよう、相手に興味を持ち、積極的に会話をするのが相手への配慮であると思う。
- ② 初対面であることを考慮し、相手とある程度距離を置きながら会話をするのが相手への配慮であると思う。